トピック 比叡山

1. 霊峰比叡山のはじまり

滋賀県と京都府にまたがる「大比叡山」(大津市)・「四明岳」(京都市)などの南北に連なる山々の全体を指す「比叡山」は、『古事記』に日枝山と記され、大山咋神が勧請された信仰の山でした。788(延暦7)年には、伝教大師最澄が延暦寺を創建し、天台宗総本山として山内の東塔・西塔・横川それぞれに多数の寺院を擁する日本仏教の中心地となります。また、比叡山は平安京の鬼門にあたることから、王城鎮護の山として位置付けられました。鎌倉時代初期の天台座主の慈円は、比叡山を「世の中に山てふ山は多かれど、山とは比叡の御山をぞいふ」(山といえば比叡山のことをいう)と詠み、比叡山が霊山として日本社会に広く知れ渡っていたことがわかります。

2. 仏教の聖地比叡山のあゆみ

比叡山延暦寺からは、天台宗寺門派の園城寺(三井寺)、天台真盛宗の西教寺など、多くの寺院が派生しますが、その広がりは天台宗に収まらず、鎌倉仏教の祖師の法然・親鸞・道元・日蓮などが、この比叡山延暦寺で修行したように、あらゆる仏教教学・宗派の成立に影響を与えました。その一方で、比叡山延暦寺は、多数の大衆(寺僧集団)と荘園経済を背景に、時に武家政権や朝廷と対立します。1571(元亀2)年には織田信長による焼打ちによって灰燼に帰しますが、その後、豊臣秀吉や徳川家康の外護のもと諸伽藍が再建され、門前町坂本も復興し、仏教の聖地として再生を遂げます。

3. 近代比叡山観光の幕開け

近代になり、信仰と修行の山であった比叡山は、社寺観光の機運の高まりを契機に、1927(昭和2)年にケーブルカーの竣工・営業が開始され、観光地化していきます。また、ロープウェイやドライブウェイも整備され、延暦寺諸堂の拝観のみならず、比叡山の雄大な自然や史跡を訪れることができるようになりました。1994(平成6)年には、ユネスコより『古都京都の文化財』として延暦寺が大津市・京都市にまたがる歴史遺産として、「世界文化遺産」に登録をされました。

図T-1 比叡山延暦寺案内図(1927〔昭和2〕年) (筆者蔵)

大津市歴史博物館 **高橋 大樹**